

学 校 名	山形市立第三中学校 山形市双葉町二丁目１番１０号 TEL 644-3903 FAX 645-8492	校 長	細 谷 寛
		研究主任	鎌 田 史 顯
研 究 主 題	「豊かな自己実現を目指す生徒の育成」(9 年次) —— 一人ひとりの学習到達度をより高める指導法の工夫 ——		
主 題 設 定 の 理 由	「自己実現」とは、より高い価値、つまり理想の自己を目指すことであるととらえ、そのための指導方法、援助のあり方を探求することをこれまで校内研究で進めてきました。 また、平成 1 4 年度からの新学習指導要領の完全実施に伴い、学力向上に努めると同時に、生きる力を育むことを目指し、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を探ってきました。 平成 1 3 年度、評価規準及び評価基準を明示した年間指導計画の研究、平成 14 年度の規準に基づいた発展学習場面(チェレンジ C)・補充学習場面(フォロー F)の学習場面設定(C F 計画)の研究というように、「自己実現」の前提となる基礎・基本の習得、確実な学力の獲得に向けて研究を積み上げてきました。しかし、評価規準・基準設定のさらなる適正化や、生徒個々の到達度や習熟度、つまりきに応じた指導には改善の余地、課題が残っております。 そこで、今年度は評価と指導の一体化を目指した単元構成、授業の改善を目指し、2 カ年の研究成果を土台とし、「C F 計画」の深化・細分化・発展を通して、生徒一人ひとりの確かな学力の獲得を目標として、研究主題及びサブテーマを設定した。		
研 究 の 仮 説	『各教科の単元及び授業の C F 場面において、生徒個々に応じた指導法や指導形態を工夫することによって、一人ひとりが自らの学習課題を把握し、意欲的で効果的な学習活動を展開し、より確かな学力を身につけるであろう。』		

研究の内容	(1) 評価規準・基準の適正化と指導過程の工夫 生徒が到達目標を明確に持ち、意欲的に学習活動を展開するための学習目標の焦点化及び評価規準・基準の適正化を図る。 より確かな学力を身につけさせる指導過程の工夫を行う。 (2) 形成的評価の在り方とC・F場面での指導法の工夫 形成的評価後の指導法・指導形態の工夫を行う。 生徒が到達度を自ら把握し、次の課題を見つけられる評価活動の工夫を行う。 (3) 「道徳」「学級活動」指導の充実 (4) 「総合的な学習」の実践課題の研究
研究計画	1 節 (4 月 ~ 6 月) ・ 研究主題等、今年度の取り組み検討 ・ 各教科、今年度の研究内容の検討 2 節 (6 月 ~ 8 月) ・ 研究主題、仮説、具体的方策、研究計画等の細案検討・決定 ・ 研究についての勉強会 (夏期休業中) 目標・指導・評価の一体化をねらった指導過程作成 各教科の研究内容、具体的方策等の検討 ・ 6 月 18 日、7 月 1・8 日 教科部会 ... 各教科の研究について 3 節 (9 月 ~ 1 0 月) ・ 授業研究会 ・ 各教科での実践 (通年) 4 節 (1 0 月 ~ 1 月) ・ 授業研究会 ・ 各教科での実践 ・ 今年度の研究の評価 ・ 研究のまとめ 5 節 (1 月 ~ 3 月) ・ 次年度研究計画 ・ 研究紀要の発行